

園のおたより



第 6 号

令和 4 年 9 月

埼玉大学教育学部附属幼稚園

夏休みの自由研究（その2）

園長 小倉 康

前号において、「私は夏休みには、親子で一つのテーマを研究してほしいと思います。」と書きました。9月半ば、園児のAさんが自分で作った「ありさんにつき」を持ってきて私に見せてくれました。夏休みの自由研究の成果物でした。

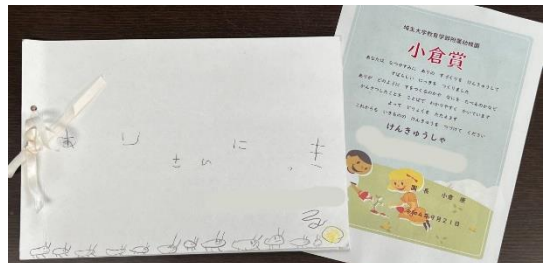
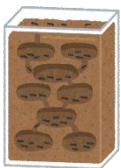
ご家庭でアリの巣作りを観察できる透明ケースを用意され、Aさんが、近くで見つけたアリのケースに入れて観察し始めたところ、土の中にトンネルができていくことと、掘り出したと思われる土が上部にたまっていくことを見つけました。何を食べるのかも注意深く観察して調べました。

この研究の間にAさんのアリへの興味は、科学者のような知的探究心へと変容し、見出した疑問を観察や実験で解明していく面白さを体験できたことが読み取れました。家族の温かいサポートに支えてもらえたことも、Aさんが主体的に自由研究を続けられた大切な要因だったと想像されます。

仕事柄、小中高校生の科学研究発表会の審査を多く経験してきましたが、どの発表者も、家庭と学校で人格を尊重されながら大切に育てられてきたと容易に想像できる健やかな生徒さんでした。きっと、スポーツも科学も文化も普段から様々な活動に興味を持って取り組んでいるのだろうと思います。

さてAさんには、その努力を讃えるとともに今後のさらなる発展を期す思いから、即席で恐縮でしたが、賞状を差し上げました。

子供達が成長する過程では、自分が興味をもった分野で健闘し、その成果が表彰されることが少なからずあります。次世代を牽引していく逞しい若者に育っていただけるよう、私たち大人は彼らの奮闘を大いにサポートして参りましょう。



「遊び」を大切に

保育のない夏季休業の間に、今年もいくつかの研修会に職員がそれぞれ参加しました。オンラインでの研修が中心でしたが、いくつか集合・対面での研修も再開しています。ここ数年の研修会や他の園での研究活動では、幼児期の「遊び」の意味を考える内容が多くなっています。

幼稚園教育の基準となる『幼稚園教育要領』（小学校以上の学習指導要領に相当するものです）では、「遊び」を通して指導することが重要とされています。そして、その「遊び」は「幼児の自発的な活動としての『遊び』」と位置付けられています。子どもたちにとって「遊び」が大切であることは、多くの人が肯定することだと思いますが、なぜ大切なのかについては、説明することがなかなか難しいテーマです。目まぐるしく変化する社会の中で、改めて幼児期の教育のあり方や、そこで大切にしたいと考える「遊び」の意味を、捉え直すことが求められているのだと感じています。

京都大学名誉教授の矢野智司さんは、子どもの「遊び」について次のように書いています。

“ただ子どもは遊びたいから遊んでいるのです。それが結果として発達を促すことになるかもしれませんが、また精神的な安定を得ることもあるかもしれないだけです。しかし、それは結果として偶然に得られることであって、遊ぶときに子どもに目的とされることはありません。”

“何かのためにするのではない遊び！有用な生産活動とは無縁の遊び！むしろ、その有用で生産的な活動を侵犯し破壊するのが遊びの本質なのです。もっと有効に有用なことのために使えたかもしれないエネルギーや時間や財を、惜しげもなく役に立たないことに蕩尽（とうじん）することが遊びの醍醐味なのです。”

“遊びでは、有用性の世界を破壊することで、物や人との全面的な関わりを取り戻すことができます。（略）このような体験を生きることによって世界に対する根源的な信頼感や安心感をもつことができるのです”

【「幼児教育の独自性はどこにあるのか(1)：遊ぶ子どもの力」『幼児の教育』104巻4号2005年】

矢野さんは、「子どもは『遊びの世界の住人』」とも書いています。幼稚園が「遊びの世界」となっているか、幼稚園で生活する私たち大人は「遊びの世界の住人」に寄り添えているか…、「遊び」の大切さを丁寧に捉え直しながら、今後の保育も進めていきたいと思います。

(副園長)



クラスだより



1くみ

「お豆を集めよう！」

2学期が始まり、1か月が経とうとしています。少しずつ涼しくなり、1組前のプランターで育てている朝顔は毎日違う色の花を咲かせ、オジギソウはピンクの丸い花をたくさん咲かせました。

そして、砂場前の大きなコブシの木の下には、丸い実が落ち始めました。初めは、「こんなのが落ちていたよ」、「これは何？」と教えてくれたり、どこから落ちてきているのかを見たりして過ごしていました。数日すると、「先生！ご飯ができました！」とご飯を届けに来てくれました。中を見てみると砂のご飯の中から、赤と黒のコブシの実がごろごろ出てきます。料理をしてくれた人に聞くと、これは“豆ご飯”だそうです。続いて、近くで遊んでいた人がそっと寄ってきて、「豆茶です」とコップを渡してくれました。中を見るとこちらにもコブシの実が浮いています。友達を見て、やってみたいと料理する人が増えてくると、集めていたコブシがなくなってしまうました。するとある人が、「お豆を集めよう！」と誘ってくれました。その声を聞いて、料理をしたり、近くで様子を見ていたりした人が、「行きたい！」と集まってきます。コブシの木の下をよく見てお皿に集め、木の下になくったら今度は、滑り台の近くに移動です。そこには、ネズミモチの木があり、小さな実がたくさん生っています。子ども達は、1学期から園庭をよく見ているので、素敵なもののある場所をよく知っています。その日、ネズミモチは“胡麻”になりました。別の日は小さな“お豆”になり、また、別の日は小さな“リンゴ”になりました。毎日、園庭を大きく動いて子ども達はたくさんの発見をし、遊んでいます。自分達で見つけたものをいろいろなものに見立てて遊ぶ姿を見ていると、今日はどんな発見があるかなと思います。子ども達と一緒に毎日たくさんの発見をしながら、生活していきたいと思っています。

2学期になり、一日の中でみんなで過ごす時間も少し増やしています。音楽に合わせて体を動かしたり、簡単なルールのある遊びをしてみたり、走ったり、2組や3組の姿を見てやってみたかったことに挑戦してみたりしています。園庭で過ごしやすい気候になってきたので、戸外で遊ぶ気持ちよさや体を使って遊ぶ楽しさを感じたり、みんなで過ごす面白さを味わっていけるように過ごしています。



2くみ

「こんなものができたよ」

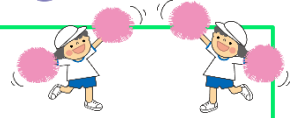
暑かった夏が過ぎて、秋らしい風や心地よい晴れ間を感じる時期になりました。2組の人たちも2学期が始まって1ヶ月が経ち、1学期の生活を思い出しながら、また新しい遊びや面白いことを見つけて日々夢中になって過ごしています。

1学期は、空き箱を使っていろいろなものを作りました。大きな箱をミニチュアの家に見立てたり、タイヤをつけて車を作ったり等、子どもたちのいろいろなアイデアが形になりました。そこで2学期は、保護者の方の協力も得ながら、プラスチック製の容器などの新しい素材を遊びの中で使うことにしました。紙製の空き箱と比べると扱いが難しい面もありますが、新しい形状や質感が子どもたちのアイデアを引き出しています。どんなものを実際に子どもたちが作っているのか、一部を紹介したいと思います。ラップなどの筒状の芯は、魅力的で使いやすい素材の一つです。その長い筒と同じくらいの径のプラスチックの容器を組み合わせ、望遠鏡を作った人がいました。さらにいろいろな形に切り抜いた色画用紙を中に入れて貼り付けると、万華鏡に早変わりです。プラスチックの容器を使って別の人が作ったのは、見た目にも触り心地にもこだわったアイスのカップです。透明なカップに細くきった色紙を一枚一枚丁寧に貼り付けて、素敵な模様ができました。そのカップにはふんわりとお花紙を載せてカップアイスのでき上がりです。

1学期から降園前などにその日の出来事をみんなで話す時間を設けていますが、最近は自分から発信していきたいと思う人が多くなっています。自分が作ったものを紹介して学級の人みんなに見てもらうことで、次の遊びへの意欲につながっているようです。また、友達が作った物を見ることで次の日にまねて作ったり、新たなアイデアにつなげたりして遊びが広がっています。

学級の人みんなで過ごす時間でのやりとりもそうですが、好きな遊びをしている時間や、着替えなどの様々な場面で子どもたちの会話が盛り上がっています。30人でこれまで過ごしてきた中で、いろいろな人と関わる楽しさを感じるようになってきた人が多いのではないかと思います。運動会を始め、楽しいことが多い2学期ですが、その一つ一つを2組の人みんなで大切に経験として積み重ねていきたいと考えています。

3くみ



「どうしたら楽しくなる？」

2学期が始まり、1ヶ月が経とうとしています。夏休みの間も、幼稚園での生活を心待ちにしていたようで、園にくると1学期のことを思い出しながら、早速遊び始めていました。

「運動の秋」らしく過ごしやすい気候が多くなってきたので、「Sun×Sun OHA!」という曲を学級で紹介し、みんなで踊ってみました。どんな動きが出てくるかわくわくしながら、初めは自由に動いてみることに。ジャンプしたり、大きく腕を動かしたり、友達と動きを合わせてみたり、曲を感じながら一人一人が全身を使って表現する姿があり、自分で考えた動きをすることを楽しんでいました。

「あの曲で踊りたい」との声があり、次の日から、好きな遊びの中でも興味のある人が集まって踊りを考え始めました。どんなふうに動いたらよいか、最初と最後のポーズはどうするか、を実際に動いたり、互いに見合ったりしながら決めていきます。ある程度、振りが出来上がると誰かに見せたい気持ちが出てきたようで、お客さんを呼びに行きます。すると、もっと素敵なものを見せたいと、マットを使って技を披露したり、巧技台でステージを作ってみたり、友達とアイデアを出し合っています。遊びの中で、自分たちも、お客さんも楽しくなるためにどうしようかと、考えることも楽しんでいるようです。

1学期から学級のみんなで楽しんでいることの1つにリレーがあります。先日、子ども達だけでチーム分けをすると、白チームの人数が多くなってしまいました。「これでいい？」と聞いてみると、「うん。早くやろう」と返ってきたので、そのままリレーを始めてみました。結果は大差で赤チームの勝ち。走り終わるとすぐに「こっち（白チーム）の方が多かったからだよ」との声が上がりました。それを聞いた赤チームから「次はぴったり半分になるようにしなくちゃ」「何人いるか数えればいいんだよ」とアイデアが出て、チーム分けをする時の約束ができました。勝敗がつき悔しい気持ちもありましたが、勝った赤チームから「今日は両方優勝だね」と、最後まで頑張ったお互いを讃える声があがり、温かい気持ちでリレーを終えることができました。

2学期になり、みんなで楽しくやるためにどうしようかを少しずつ考えようとする姿が見られるようになってきました。自分の思いも大切にしながら、みんなで楽しくを考えていけるよう支えていきたいと思います。